

東北学院大学災害ボランティアステーション

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY Volunteer Station for Disaster



学び

スタディバスツアー

新入生やボラステの活動に興味がある人等を対象とした被災地を巡る企画です。誰でも気軽に参加できます。



続け

現地での定期活動

宮城県沿岸部を中心とした複数の地域で行う定期活動では、被災地のニーズに合わせた「息の長い」支援を目指しています。



シンポジウム

年に一度のボラステ主催のシンポジウム。全国の学生ボランティアや有識者が集い、交流。日頃の学びを共有し、自分たちのフィールドに持ち帰って活かします。



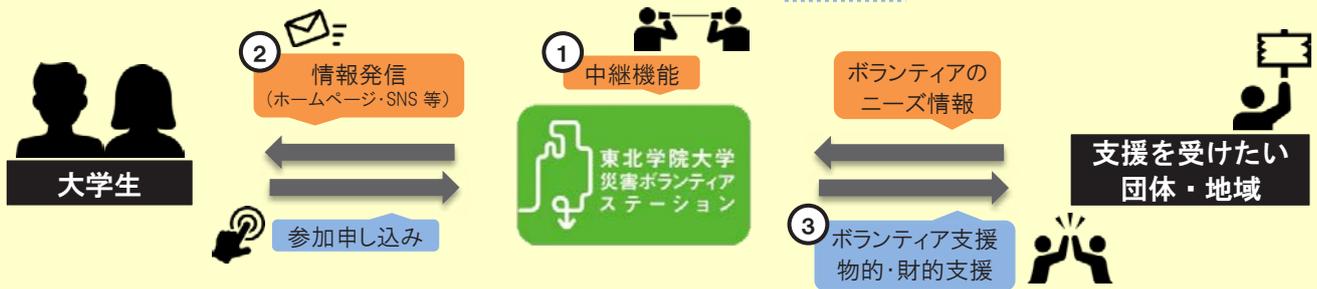
活動の振り返り

振り返りまでが活動のうち。ボラステ内にとどまらず、学生に開けた報告の場を設け、被災地の現状や私たち学生にできること考え、伝えています。

伝える

ボラステの役割

💡 学生へ**ボランティア募集情報**を発信し、ボランティアを募集している地域や団体と**ボランティアをしたい学生**をつなげています。



日本全国の学生の復興の輪を広げる

④ 大学間連携災害ボランティアネットワーク

本ネットワークは、復旧や復興における大学間連携の枠組みです。震災直後から他大学の支援をいただいた本学が、被災地域内の大学としてハブの機能を担っており、現在130の参加校のネットワークが構築されています。

本ネットワークの目的

- ① 全国からの学生の復興活動の中継すること
- ② 地域間の連携を取り持ち、全国各地での復興の輪を広げること
- ③ 学生間が手を取り合い協働・交流すること

💡 また、他大学との**連携ネットワーク**づくりも担っています。

宮城県の大学が手を取り合う

⑤ 復興大学災害ボランティアステーション

本学は、宮城県の学生が積極的に関われるボランティアネットワークの代表大学でもあります。復興に関わる気づき・きっかけを得る様々な機会をセッティングしています。

ボラステの活動のねらい

東日本大震災の発災直後から現在まで災害・復興ボランティア活動に関わってきて8年が経ちました。今、被災地域の大きな課題の一つに、震災記憶の風化にともない潜在化しつつある**被災者の孤立**が挙げられます。これを防ぐためには、**被災地域住民が主体となったコミュニティ再生**が必要です。そのため私たちは「息の長い、地域に根ざしたボランティア活動」を行い、見えにくくなっていく各地域の対人支援に関わるニーズに対して住民同士や学生が可視化できるように、コミュニティを作っていくことを目指しています。また、一つでも多くの地域に対してコミュニティ再生の**輪を広げていく**ことも目指しています。

定期活動地域MAP

【仙台市太白区】



復興公営住宅における住民交流・催事運営支援活動

【宮城郡七ヶ浜町】



復興公営住宅における住民交流・催事運営支援活動

【気仙沼市】



仮設住宅・復興公営住宅における住民交流支援活動

【岩沼市】



岩沼あそび場プロジェクト・平日の杜子ども支援活動

【石巻市雄勝町】



地域振興・施設整備、イベント運営支援活動

【亶理郡山元町】



地域振興・農業支援、イベント運営支援活動

【石巻市大原小学校】



学習支援・遊び相手等の子ども支援活動

【石巻市牡鹿半島小湊浜】



地域振興・漁業支援、イベント運営支援活動

学生スタッフからのメッセージ

気仙沼グループ



経済学部経済学科 2年
佐藤 拓未

最初は「ボランティア」に、お堅く重労働な印象がありましたが、復興の段階や時期によって様々な活動があると知りました。東北では今、人とのコミュニケーションがボランティアにつながっていると実感しています。まだ被災地に足を運んだことがない方にも気軽に来て、目で見て改めて地域の良さを知ってほしいです。

雄勝グループ



法律学部法律学科 3年
佐藤 亮太

初めて雄勝を訪れたときは、すでに震災から5、6年たっていました。想像以上にインフラも未整備でショックを受けました。また、「復興」も地域によって進捗やアプローチ、受け止め方が異なることを知りました。ボランティア活動は関わる年代や地域も幅広く、人と関わる楽しさも感じられます。ぜひ参加してみてください。

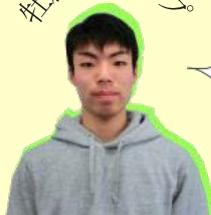
七ヶ浜グループ



経済学部経済学科 3年
菅野 江梨佳

初めはどのように話したらよいかわからず緊張していましたが、今は家に帰るような感覚で行けるようになって、とても楽しく活動しています。企画した食事会で、住民さんがぼろっと「いつも一人で食べるから、みんなで食べるとおいしいな」と口にしていました。つながりを感じる場をつくることの大切さを感じています。

牡鹿グループ



経営学部経営学科 3年
阿部 弘夢

「次回はわかめの収穫だね、頼むよ。」「イベントがないと集まる機会がないから、企画してくれて嬉しい。」等の住民さんの言葉に、必要とされているやりがいを感じます。誰かに言われてやるのではなく「この人のためになりたい」という感情で自分から動けるのはボランティアならではの、自主性が培われ、自分の価値観が成長する機会にもなります。

山元グループ



経営学部経営学科 3年
引地 優太

学生の僕たちに特別なスキルはありません。それでも住民の方は「来てくれてよかった」と毎回言ってくださいます。いるだけで、今の自分にできることをするだけで、ボランティアになるのです。人との触れ合いを通して得意ではなかったコミュニケーションにも慣れました。ぜひいろんな人に挑戦してほしいです。

あすと長町グループ



法律学部法律学科 3年
高橋 侑希

あすと長町の活動は2018年度に立ち上がったばかりで、これからもどんどん改善・変化していく活動です。まずは継続を目指して頑張ります。ボランティアと聞くと難しいとか意識高い人がやるものと考えて、きっかけがないと始めにくいかもしれませんが、ですがやってみると楽しいので、ぜひ気軽に参加してください。

学生スタッフOBからのメッセージ

私は、中学生のときに東日本大震災を経験しました。それから大学入学後、特にやりたいことがなかったのですが、友人からの誘いで災害ボランティアステーションに入りました。

恥ずかしながら入部当初は主体的に動くこともあまりできず、自分自身震災は経験しているけど、自分にできることは何かと考えたことはありませんでした。しかし、何度も被災地に足を運び現状を知り、そこにいる人の声を聞き、共に歩むことで、本当の意味での「復興」に対して自分にできること、自分にしかできないことを考えながら活動するようになりました。

そこで、4年間の様々な活動を通しての気づきというのは、「ボランティア」と一言にいても多種多様なニーズがあるということです。多種多様なニーズがあるということは、今まで以上に継続的な人と人との強い繋がりが必要であることを意味していると思います。そしてその継続的な繋がりにには、「若い力」が必要不可欠であると気づくこともできました。

これから大学生活が始まる皆さんには、ぜひボランティアに関わってほしいと強く願っています。人間的に成長したい、誰かの役に立ちたい、大学生活を充実させたいなど、きっかけは人それぞれですが、それで構わないと思います。大切なのは一歩踏み出して新しいことに挑戦することだと思います。ぜひ災害ボランティアステーションで活動してみてください。あなたの中で多くの成長ができると思います！

地方公務員 立花 亮人



STAFF
MEMBERS
MESSAGE

所長

伊鹿倉 正司

(経済学部経済学科教授)



ボランティアは、無償性や自発性が伴うものとして一般に理解されていますが、このことがボランティアの敷居を逆に高くしているように思われます。

本ステーションは、上記のような固定観念にとらわれることなく、被災者の方々のニーズに応えることを第一と考え、学生が主体となって様々な災害ボランティア活動に取り組んできました。

これまで多くの先輩たちがつないできたボランティアのタスキを、皆さんにも是非引き継いでもらいたいと思います。

学生スタッフ代表

河原 颯

(教養学部
地域構想学科 3年)



震災から8年目となり復興も着々と進む中で、ボランティアや被災地に対する思いが学生のなかで薄れてきています。定期活動やバスツアーを企画するだけでなく、被災地の魅力や震災直後に起きたこと、今起きていることを伝え続けていくことがボラステ学生スタッフの役割として必要になると思います。

また、活動に来てくださる住民さんたちにとっては、「楽しみを共有するひと」、「心のよりどころ」、ご高齢の方にとっては「孫」のような存在であればと思います。そうなれるよう環境をつくっていきたいと思っています。



お問い合わせ先

東北学院大学災害ボランティアステーション

TEL 022-264-6521

(受付対応時間/平日 11:00~16:30)

E-mail tgvolu@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

@tgvolu (公式アカウント)

@volunteer_329 (ボラステ広報部)

@gakuin.volunteer.station (公式アカウント)

土樋キャンパス



〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1 7号館2階 725教室
(東北学院大学地域共生推進機構、復興大学災害ボランティアステーションとオフィスを兼用)

泉キャンパス



〒981-3193 仙台市泉区天神沢2丁目1-1 コミュニティセンター内
(東北学院大学生協同組合隣に設置)



東北学院大学災害ボランティアステーション
(復興大学災害ボランティアステーション)

